

HopStepJump 10

<https://toyono-jinikyo.com/>

児童生徒理解研修①

～いじめ防止・対応を中心にして～

11月に実施した初任者研修・新規採用者研修第11回は、いじめ防止・対応を中心にした生徒指導をテーマに、豊能町教育委員会義務教育課の山田善紀主幹にオンラインで講義をしていただきました。前半の講義では生徒指導の在り方や子どもの課題について学び、後半の演習は事例をもとに受講者同士で交流をしながら対応を考えました。教職員間での日常的なコミュニケーションや情報共有はもちろん、報告・連絡・相談、チームで対応することの重要性を確認することができました。

～振り返りシートより～

いじめは、どの学級でも起こる可能性があります。だからこそ、未然防止をしていくことが大切だと再確認しました。その中で、**規律について自分の学級の様子を見直していきたい**と感じました。当番活動や授業中の様子など、一人ひとりが安心して活動を行えているか、学級の全員がルールを守って過ごせているのか、しっかり確認していきたいと思います。特に最近では、そうじの時間に遊ぶ児童がいたり、忘れ物が多くなっている児童がいたりしています。運動会や学習発表会など行事もたくさんあったので細かい指導が疎かになっていました。小さな部分から大きな問題に繋がる前に、しっかり声かけを行っていこうと思います。**一人ひとりの様子をしっかりと把握し、個性を伸ばしていくことができる集団をつくっていきたい**と思います。

教師側がいじめは許さないという姿勢を持つことが大切だと改めて感じました。子どもたちの様子をしっかりと見てアンテナを張ることや些細なことでも気になることがあった場合、子どもたちに伝えていく意識を持ち続けたいと思いました。「いじめを見つけようとしなければ見つからない」という言葉を聞き、本当にその通りだと思いました。**大人が見逃してしまうと、子どもたちは、「これぐらいいいんだ」と感じてしまう**と思います。これぐらいでは済まないこと、いじめは絶対にしてはいけないことを、クラス全体で年度初めに共有しておくことも大切になってくると感じました。

事例検討で問題点と対応を考えてみて、どの問題にどのように対応したらいいのか、どのような順序で問題を対処するべきなのかがとても難しいと感じました。場合によって正解の対応は異なると思いますので、**決して一人で抱え込まず、管理職や先輩の先生等に「報告・連絡・相談」することが大切**なのだと理解しました。

不登校について、さらに考えようと思いました。不登校の子に対して、「学校に来させないといけない」と感じてしまうことがあります。しかし、今回の研修で**「学校に登校するのが目的ではなく、社会的に自立することが目的」**ということを学びました。社会的に自立するためにも、その子自身が苦手なことを自覚すること、苦手なことを支援していくことが大切なのだと考えました。

中学校では自分が担任をするクラスであっても、クラスの生徒を見ることができる時間は一日の中のわずかな時間です。一人ひとりの様子をよく見たり、その**変化に敏感に気づいたりするためには、教職員間での情報共有が欠かせない**と感じています。今回の研修の事例から、生徒間の些細なトラブルであっても必ず学年や、場合によっては学校全体で共有して根本原因の解決に努めることが大切だと再認識しました。

講義の中のキーワード「**アンテナ力**」は、それぞれの立場だからこそ気づくことや気になることがあると思います。気づくことができるようになるためには、**視点と余裕**が必要で、前者は先輩や同僚の先生方との対話や自分の経験から学ぶことができ、後者は体調やスケジュール管理など自分で整えることができます。「報告したものの、その後特に何もなかった」というのは多くていいと思います。子どもたちのためにも、学年や学校のためにも情報共有をためらわないようにしましょう。

いじめを早期発見するためには子どもの変化・サインに気づくことが大切であることを学びました。子どもの小さなサインに気づくためには生徒指導を通して、**子どもとの信頼関係を築いておくことが大切**であると感じました。また、子どもから出るものだけでなく**教室や廊下が汚れている・机が曲がっている**などの環境の小さな変化に気づくためには、常にアンテナを張っておくことが大切であると思いました

私自身、日頃から**休み時間や給食時間等で子どもたち同士の関わり方や遊んでいる友だち関係を見る**ようにしています。中でも友だち関係が変わってくると付き合う人間が変わってくることがあると思うので、その場面では注意して様子を見るようにしています。その話をグループ交流で話しているときに、同じように考えている人がいました。似た視点で**授業中のグループ学習や班活動で机をくっつけるときや、話す距離を見て**いる人もいて、自分自身の学びになりました。

講義の中でアンテナを張ることが大切だという話がありましたが、演習の中で、具体的にどういふことをするのかという話をして、例えば、**廊下での見回りや、生徒との会話の中で生徒同士の関係をつかむ**ことで、いじめにつながる行動が発見できると感じました。

児童虐待について、学校事務職員としての立場では、保護者と児童との関係等は詳しく知り得ないですが、**逆に知らないからこそ客観的な視点で見えて気づくことができる**と感じました。親子間の雰囲気や児童の表情等に少しでも違和感をもった場合は管理職に報告するなどしていきたいと感じました。

グループワークで「どのようなところを見て子どもの変化に気づくか」という話し合いをした際に、「健康観察をしているとき、いつもより声が小さい子がいたときは名前に印をつける」という先生がいました。ただ元気かどうかを言葉で聞くのではなく、**声色でも子どもの心や体の健康状態を見る**ことができると学び、ぜひ実践したいと思いました。他にも「頻繁に保健室に行く子どもをどう見るか」という話になり、**保健室に行く回数が多いのは体調が悪いのではなく、何か抱えていて保健室に行きたいのかもしれない**（勉強が嫌だから授業を受けたくないのかもしれない、かまってほしいのかもしれない、教室にいたくない理由があるのかもしれないなど様々なことが考えられる）とのことでした。

講義を聞いて、いじめを未然防止するためには、日頃から子どもの変化、環境の変化に気づくことが大切だと学びました。いち早く気づくことができるように、**放課後に教室の掃除をしたり、朝に挨拶をして生徒の顔色を見たり**しようと思います。山田先生がおっしゃっていた、**小さな規律がいじめのないクラスを作る、教師がいじめやいじりを見逃すことがいじめに加担していることにつながる**など、改めて気をつけていきたいと感じました。

2時間の研修で、すべての内容を理解できるわけではありません。むしろ、研修をきっかけに自分の実践を振り返ったり、現状や課題を見つめ直したりする中で、さらなる課題や疑問が生まれることもあります。昨年度の初任者研修は、コロナの対応で大半はZ o o mを活用したオンライン実施でしたが、研修終了直後にその日の研修で学んだことについて教頭先生にアウトプットをしている方がいました。所属校で受講するメリットの一つだとも感じました。研修内容を話題にして校内の先輩に聞いてみたり自分で調べてみたりすることで、研修内容を深めることができ、それを普段の実践に還元していけると感じます。研修での学びを研修のときだけに留めず、その後につなげていくことも「学び続ける」ということだと感じます。



講義の中でも触れた「**生徒指導提要**」は、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し、今日的な課題に対応していくため12年ぶりに改訂が行われ、12月に公表されました。

(*改訂版は、デジタルテキストとして文部科学省のホームページに公表され、関連情報に容易にアクセスできるように考慮されています。また、デジタルテキストの活用ガイドも掲載しています。)

【生徒指導提要（改訂版）】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm

